第３学年１組　体育科　学習指導案

指導者　狩野　和弘

|  |
| --- |
| 単元名「打って守って走ろう！ミニBTボール」  「E　ゲーム」　ウ　ベースボール型ゲーム |

１　単元について

1. 教材観

　　　 中学年のボールを使ったゲームは，「ゴール型ゲーム」，「ネット型ゲーム」，「ベースボール型ゲーム」の３つの型で構成されている。その３つの中において，本単元では，「ベースボール型ゲーム」を通じて，基本的なボール操作とボールを持たない時の動きについて学習していく。ベースボールは，主に「打つ」，「投げる」，「捕る」,「走る」の４つの動きを基にしている。また，小学校学習指導要領解説体育編第３学年及び４学年の目標に，「各種運動の楽しさや喜びに触れ，その行い方及び健康で安全な生活や体の発育・発達について理解するとともに，基本的な動きや技能を身に付けるようにする。」と記載されているように，単元の中で，ベースボールの基本的なルールについて理解したり,ボール運動の楽しさや喜びについて味わわせたりしたい。

1. 児童観

　　　 ベースボール型ゲームのボール運動は，チームに分かれて，ボールを打って走ったり，ボールを捕って投げたりして，点を取り合うことに楽しさや喜びを感じることができる運動である。また，上手く打てたり上手に守れたりした時に，チームの仲間から声をかけられることからも楽しさや喜び，達成感を感じることができる。そして,個人のプレーの喜びだけではなく，試合に勝ったり，よい勝負ができたりすることで，チームとしての一体感も味わうことができる。一方で，ボール操作が苦手な児童にとっては，ボールを投げたい方向に投げることができなかったり，上手に捕ったり，打ったりすることができないため，ボール操作が難しいと感じてしまう可能性がある。そこで，本単元では，基本的なボール操作の練習やボールを使った楽しいゲーム感覚の運動などを単元の中に取り入れていく。そして,スモールステップで段階を踏みながら，基本的なボール操作の技能を身に付けさせていくとともに，作戦や用具の工夫などを行いながら活動を行わせていきたい。

1. 指導観

　　　 本単元では，ベースボールにつなげるためのベースボール型ゲームとして，日本野球機構推奨のBTボールを基にしたミニBTボールというゲームを行っていく。BTボールとは，野球（Baseball）やティーボール（Tee ball）のルールを簡易化した，誰もが楽しめるベースボール型スポーツである。ゲームの中では，全ての児童にボールを打ったり投げたりさせる機会を設定し，「上手く打てた」「上手く投げられた」などの達成感を味わわせたい。また，友達のプレーを観戦したり，互いにアドバイスをしたりする時間を設定し,体育科における「する」以外の「見る」「知る」「支える」の観点も大切にしながら学習活動を進めていきたい。学習を進めていく中で，児童に「みんなが楽しめる」という視点のもとチームで作戦を考えたり,お互いに声をかけ合ったりする工夫も行っていきたい。教師の児童への声かけとしても「上手いね」「すごいね」などの単調なものではなく,「打つ」・「投げる」・「捕る」・「走る」といった４つの視点から具体的に全体や一人一人に対して褒めていくような声かけをしていきたい。

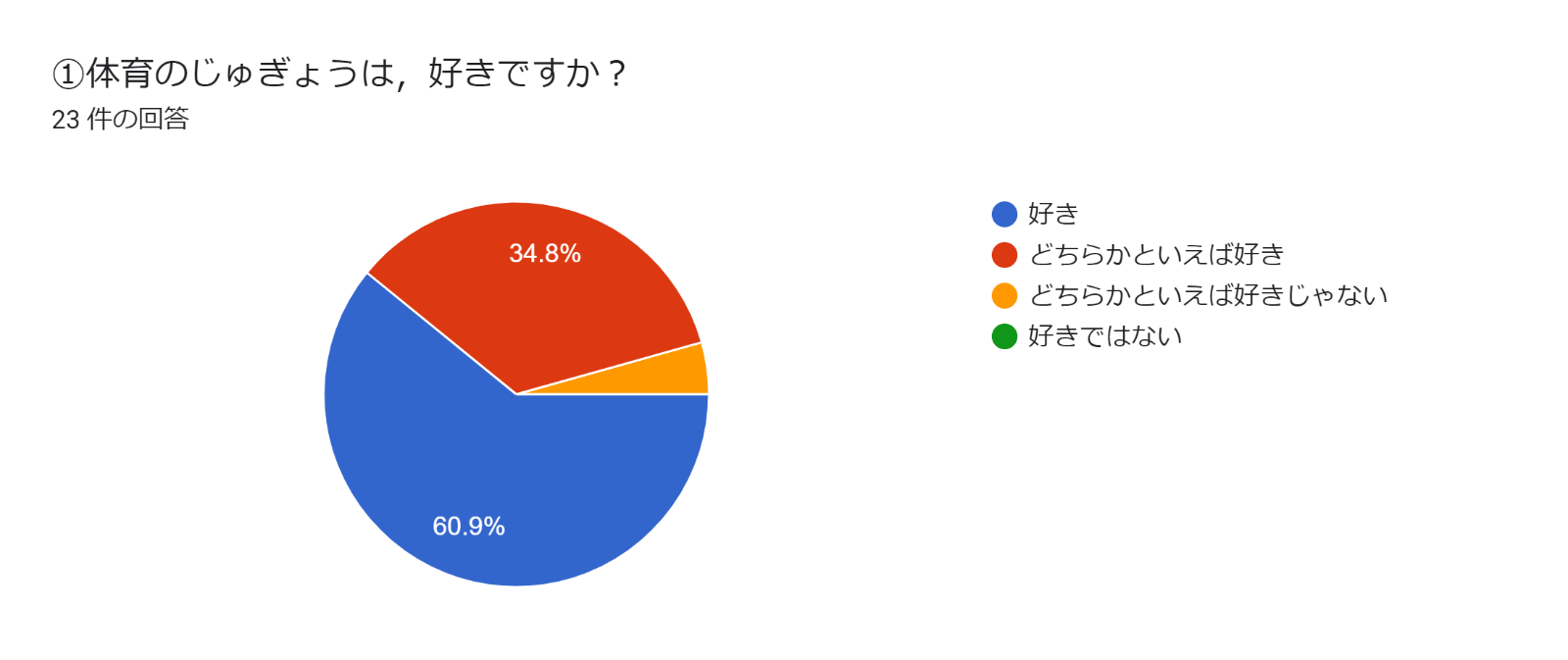
２　児童の実態

　　本学級の児童は，男子９名,女子１４名の計２３名である。（内１名が特別支援学級所属）男女ともに休み時間は外で遊ぶ児童が多く，男子は主にドッジボールやサッカー，女子はジャングルジムやブランコなどの遊具や一輪車などを使用して遊んでいる。男女ともに鬼ごっこも好きで，クラスで男女交ざって楽しそうに遊んでいる姿も見られる。また，学期末のお楽しみ会では，チームに分かれてドッジボールをし，クラスとしてもボール運動に親しみをもつ児童が多い。しかし,ボールを使った遊びが好きではなく,ボール運動に苦手意識をもっている児童も数名いる。

　　本学年の児童は１，２年生の時に，段ボールなどを使った的当てゲームやドッジボール，ルールを簡単にしたラインサッカーや基本的なボールのパスやドリブルを体育の授業で行ってきた。その中で，どうやったら上手くボールを的に当てられるのか，勢いよく投げられるのか，相手に向けて蹴れるのかを自分で考えたり，児童同士でよい点や改善点をについて話したりしてきた。また，本校では，「自ら考え，互いに学び合う」という視点を全ての教科で大切にして授業を行っている。互いに学び合うためには，まず自分の考えをもち，相手と自分の考えを比較しながら伝え合うことで,お互いに高め合うことができる。３年生になってからも，「どうやったら，今できる技をもっと上手にできるようになるか」や「どうしたらできない技ができるようになるのか」「みんなが楽しめるにはどうしたらいいか」という視点から,まず自分自身で課題を見つけ，解決方法について考えたことをグループやクラスにおいて話し合いなどで共有しながら，活動している。

【体育の授業に関するアンケート結果（２３名実施）】

○体育の授業は好きですか？



【質問ごとの回答人数】

好き･･･１４人

どちらかといえば好き･･･８人

どちらかといえば好きではない･･･１人

【質問の回答理由】

・色々な技に挑戦できて、できない技もできるようになることがあるから。

・体を動かすのがすきだから。

・家でできないことができるから。

・好きなこともあったり嫌いなこともあったりするから。

アンケートに答えた約３分の２の児童が体育の授業は好きと答えた。好きと答えた児童の理由としては，「楽しいから」や「挑戦できる」などがあった。どちらかといえば好きと答えた児童は，「好きな内容と好きでない内容がある」，好きではないと答えた児童は，「暑いから」などといった理由であった。

　本単元では，ボール運動の基本的な技能を身に付け，苦手意識のある児童にも「楽しい」「できた」などという気持ちになるように，授業の場の設定ややり方などの工夫をしていきたい。

○今までの体育の授業でうれしかったことや思い出に残っていることはありますか？

・できない技ができるようになって褒められたこと

・鉄棒で逆上がりができたこと

・楽しくみんなとプールができたこと

・みんなで運動会を頑張ったこと

・難しくてできなかった技ができたこと

　子供たちは，できないことができるようになった時に，達成感や喜びを感じていることがわかった。また，教師や友だちにできたことを認めてもらうことで，より一層喜びを感じている。

　本単元でも，ボール運動の基本的な技能の練習を繰り返し行わせ，「投げる」「捕る」「走る」などの動きから「できた」という感覚を味わわせていきたい。

○体育の授業で，嫌だな，大変だなと感じるのはどんな時ですか？

　子供たちは，体育の授業の中で，上手くいかないことやできないことに抵抗感をもっていることがわかった。また，お手本をしっかり見てもできないという答えもあった。

本単元では，基本的な技能習得を目指していく中で，スモールステップで少しずつできることを増やしながら，活動していくようにしたい。また，試合に負けると嫌だ感じるという答えもあったので，試合に勝つことももちろん大切だが，自分や友達のできたことやよかったことにも目を向けさせたい。また，練習や試合での場の安全指導も行っていきたい。

・鉄棒の逆上がりをするのが大変だった時

・夏で暑くて,たくさん汗をかいた時

・水泳で,上手く泳げなかった時

・お手本をしっかり見たのに,自分はできなかった時

・ゲームに負けた時

・上手に技ができなかった時

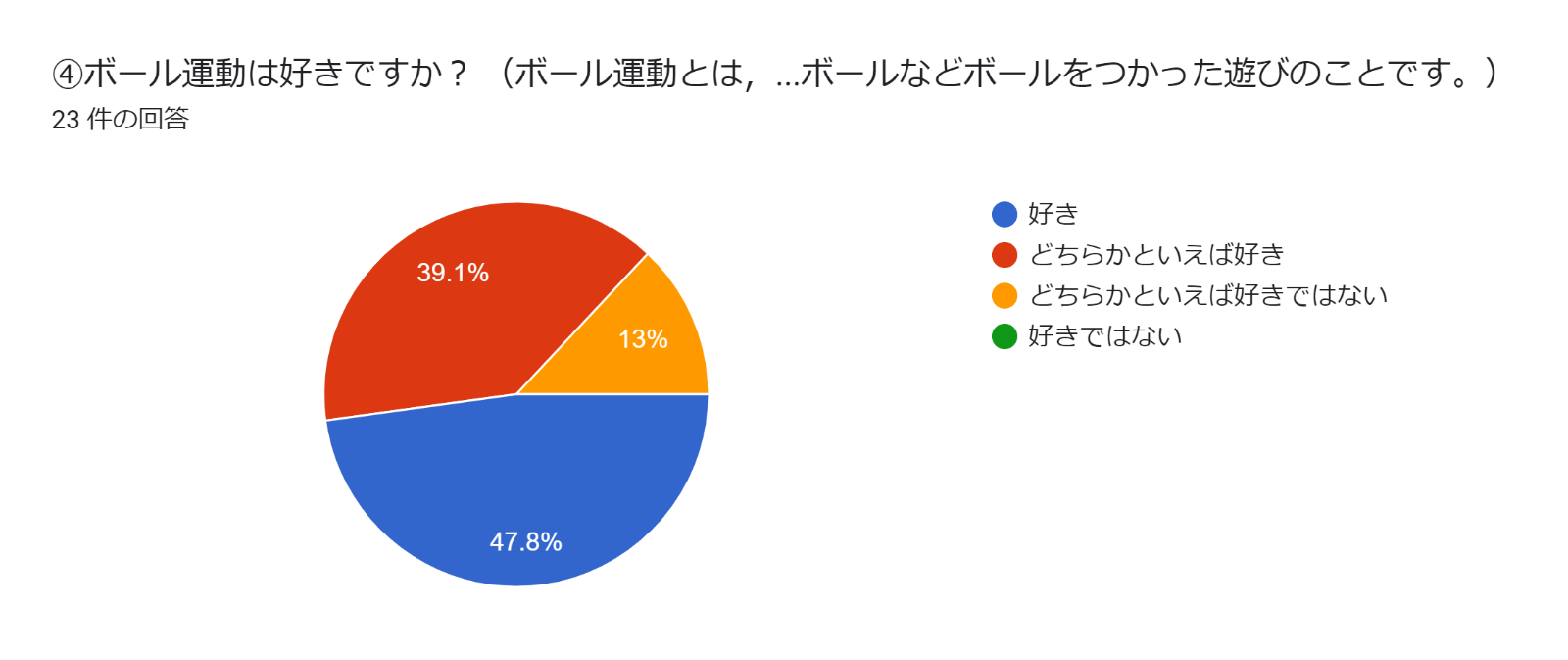
○ボール運動は，好きですか？

【質問ごとの回答人数】

好き･･･１１人

どちらかといえば好き･･･９人

どちらかといえば好きではない･･･３人



【質問の回答理由】

・ドッジボールが好きだから。

・サッカーが好きだから。

・投げたり，蹴ったりすることが好きで休み時間にしているから。

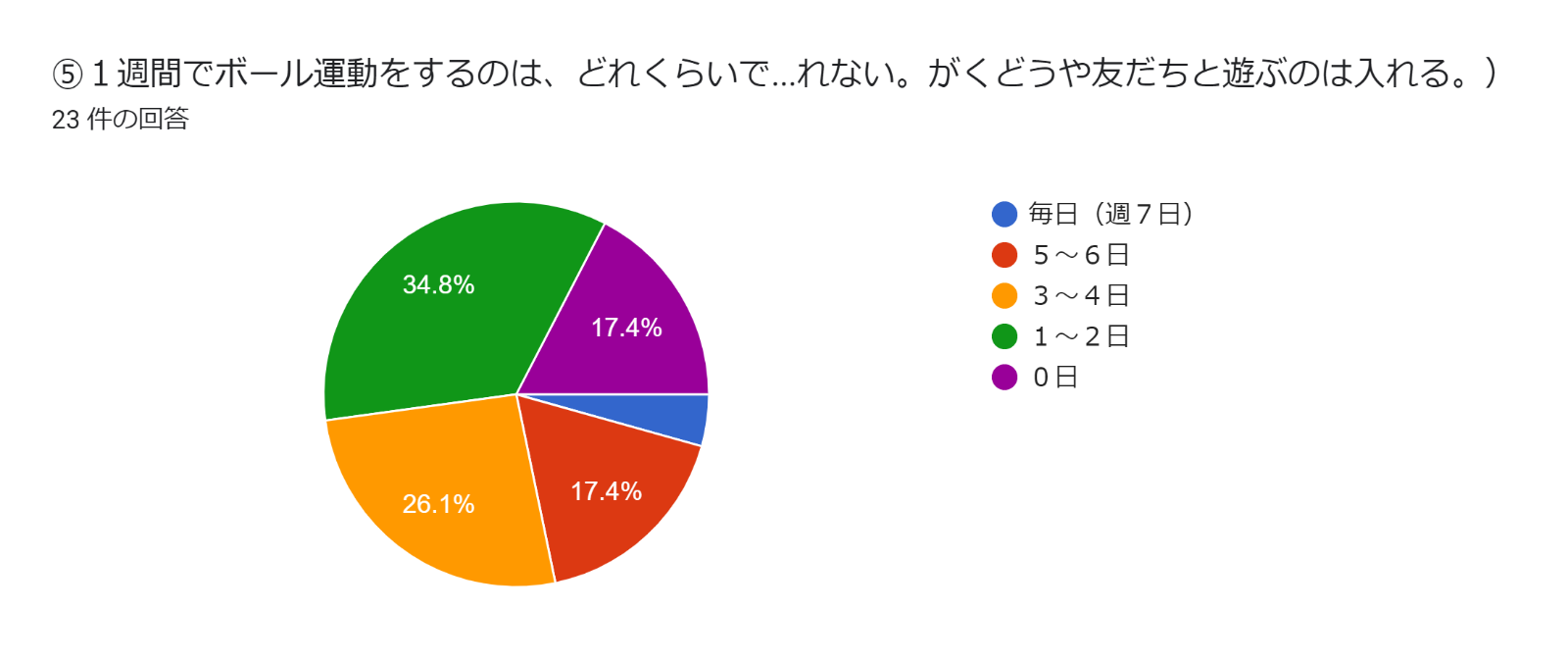
・投げたい方向に上手く投げられないから。

・投げたり蹴ったりするのが苦手で好きではないから。

　アンケートに答えた児童の約半分がボール運動は好きと答えた。どちらかといえば好きと答えた児童も含めれば全体の約９０％になる。しかし，体育の授業は好きか？という質問と比較するとどちらかといえば好きではないと答えた児童が２人増えている。回答を細かく見ていくと，体育はどちらかといえば好きだが，ボール運動はどちらかといえば好きでないと答えている児童もいる。

　本単元では，ボール運動の中での，子どもたちの苦手意識やつまずきをしっかり把握していき，「好き」「楽しい」「もっとチャレンジしたい」といった気持ちを大切にしていきながら，スモールステップで活動や練習に取り組ませていきたい。

○１週間で，ボール運動をするのはどのくらいですか？（体育の授業は除く）



【質問ごとの回答人数】

・毎日･･･１人

・５～６日･･･４人

・３～４日･･･６人

・１～２日･･･８人

・０日･･･４人

【質問の回答理由】

・外で遊べる日はドッジボールをしているから。

・サッカーを習っているから。

・ラグビーを習っているから。

・暑くて，外に行けない時が多いから。

・涼しい教室でゆっくりしたいから。

・外には出るが，鬼ごっこや一輪車をしているから。

　アンケートに答えた約８割の児童が週に１日以上はボール運動や遊びをしていることがわかった。逆に２割の児童が１日もボール運動をしていないということもわかった。クラスの中では，サッカーやラグビーなどの習い事や，土日に友だちとドッジボールやサッカーなどをしている児童がいる。１～２日，０日の児童に理由を聞いていくと，暑くて外に出たくないから,ボールは体に当たったら痛いからと答えた。

本単元では,ボールが当たる怖さや上手く投げることができない自信のなさなども踏まえた上で，上手く捕れなくても痛くなく，児童が安心して打ったり投げたり捕ったりするボールを用意し，単元の中で使用し,活動における児童の主体性を伸ばしていきたい。

○全国体力・運動能力,運動習慣等より　山梨県のボール投げの記録との比較について

本県の令和３年度　第３学年におけるボール投げの平均記録は,男子13.49m,女子は9.24mである。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 児童 | 令和５年度　春　児童の記録（ｍ） | 児童 | 令和５年度　春　児童の記録（ｍ |
| 児童A | ５ | 児童N　○ | １３ |
| 児童B | ３ | 児童O　○ | １４ |
| 児童C　○ | １３ | 児童P | １７ |
| 児童D | １０ | 児童Q　○ | ５ |
| 児童E　○ | ４ | 児童R | ８ |
| 児童F | ９ | 児童S　○ | １２ |
| 児童G | １４ | 児童T | １１ |
| 児童H　○ | １０ | 児童U　○ | １５ |
| 児童I | １３ | 児童V　○ | １１ |
| 児童J | ５ | 児童W | １１ |
| 児童K | ８ |  |  |
| 児童L | ８ | **男子児童平均** | **10.7** |
| 児童M | １２ | **女子児童平均** | **9.5** |

※男子には,○を記載

上記は,令和5年度５月頃に実施した全国体力・運動能力,運動習慣等調査に関わって実施した本学級のボール投げの記録である。県のボール投げの平均と比較すると男子の記録は平均を約３ｍ下回り,女子は,平均を約0.3m上回っていることがわかる。男女とも個別の記録と比較すると,男子は県平均を上回っている児童が１人,女子は７名いる。この実態から,特に男子において山梨チャンピオンにおけるドッジラリーや児童会と連携した的当てゲームなどの日常的に投げる取組を行わせながら投擲能力を身に付けさせたり,ボール運動に対する苦手意識を減らしたりしていきたい。女子についても男子と同じように日常的に投げる取組を行わせ,平均を超える記録を維持したい。日常的な活動の中で,女子が男子に上手く投げることのポイントを伝える姿にも期待したい。そして,日常的な取組で身に付いた投擲能力を体育の授業と関連させながらボール運動における成功体験を増やし,友達と楽しく活動をさせていきたい。

３　研究主題との関わり

令和４年度（昨年度）

自ら考え，互いに学び合う子どもの育成

～ICTを活用した教育活動と体力向上の取組を通して～

令和５年度**（今年度）**

自ら考え，互いに学び合う子どもの育成

～児童が進んで動き出す体力向上の取組と授業づくりを通して～

　今年度の研究主題は，昨年度と同様に「自ら考え，互いに学び合う子どもの育成」である。そこから目指していく子どもの姿を「自分の成果や課題を発見し意欲的に活動に取り組み，仲間とともに考え高め合う姿」とした。また，研究副主題に「児童が進んで動き出す体力向上の取組と授業づくりを通して」とあり，授業の中で子どもたちが意欲的に活動したり,児童会中心となって実施している的当てゲームや紙鉄砲などの取組を相互に結びつけたりしていき,より子どもたちが活動の中で成功体験を増やし,主体的に取り組み,友だちと高め合っていく姿を目指していきたい。

　本単元である「打って走って守ろう！ミニBTボール」は，ボールを打ち,チームで点を取ったり，守備をしたりしながら試合をしていく学習である。味方の得点が試合の勝利に結びつくことで個人だけではなくチームにかけて楽しさや喜びを味わうことができる。また,ただ点が取れて「うれしかった」「楽しかった」だけではなく練習や試合から感じた課題や失敗を経験し，次に繋げるようにしていきたい。また,試合では勝敗がつくので,勝ってうれしい気持ちや負けて悔しい気持ちの２極化になりがちであり,負けを受け入れられない子どももいる。そこで,チームで作戦を考えたり,声をかけ合ったりしながら勝っても負けても気持ちがよく,次も頑張りたいというポジティブな気持ちをもたせていきたい。

　研究主題から児童が目指していく姿を「自分の成果や課題を発見し進んで活動に取り組み,仲間とともに考え高め合う」とし,そこから研究主題等と関連させ,授業を組み立てていく柱として①「児童が進んで動き出したくなるような学習活動の充実」と②「児童が互いに学び合い,高め合っていくための学習活動の充実」を設定し,それぞれの目標が達成されるための手立てを提示していく。（以下,①②の２つの柱を重点目標とする。）

1. 重点目標を達成するための手立て

重点目標①「児童が進んで動き出したくなるような学習活動の充実を図る」

手立て①【基本の運動の中で育つ基礎感覚づくりを継続して行い，基本的な技能の習得や向上を図る】

　　ベースボール型ゲームを行っていくためには，ボールをよく見て打つことや相手がいる方向に向けて投げること，自分のところに飛んできたボールをキャッチすることなどの「打つ」「投げる」「捕る」といった基本的なボール操作の技能が必要になってくる。また,その基本的な動きが上達することで,「もっと正確に投げてみたい」「もっと狙った方向に打ってみたい」「もっと気持ちよく打ってみたい」などの気持ちが生まれてくる。学級の中では,ボールの「打つ」「投げる」「捕る」などの操作に慣れていない児童もいるため，単元を通じて，ボール操作に慣れる運動を繰り返し授業の中で行わせながら,基本的な技能の習得を目指したい。ボールの基本的な技能が定着することで練習や試合に対して前向きな気持ちも生まれてくると考える。また，「打つ・投げる・捕る」練習を繰り返し行わせていく中で,「気持ちよく打つことができた」「ボールを捕ることが前より上手になった」「狙った方向に速く投げることができた」などの達成感を感じさせられるようにしたい。

手立て②【用具・場の設定を工夫して児童が意欲的に活動に参加できるようにする。】

〈用具の工夫〉

　　ベースボール型ゲームの運動に慣れていない児童にとって,守備の際に自分のところにフライボールが飛んできたり,強く転がってきたバウンドボールを捕ったりすることに対して,恐怖を感じたり,上手く捕れないため避けてしまう可能性が考えられる。そこで,フライや転がってきた球を捕球し損ねても恐怖や痛みを感じづらく,手に吸い付いつき補球しやすい柔らかくクッション性のあるボールを使用したい。しかし,ふわふわのスポンジボールだと打った時に,ボールがあまり飛ばず,打った時の気持ちよさが減り,守る側も前進することが増えて,攻めと守りの楽しさが弱まってしまう可能性がある。よって本単元で使用するボールは,捕球する時に児童が痛いと感じずしっかりと重みのあるものにしたい。それに適しているのが,ソフトフォームボールである。ソフトフォームボールは,低反発のスポンジボールである。スポンジボールであるが,重みもしっかりあるのが特徴である。本単元では,ソフトフォームボールの９cmと１２cmと１６cmの３種類の大きさを用意し,練習や試合の時に自分で使いたい大きさのボールを選択させていく。学習活動が進むにつれて,自分がどのボールを打てば打ちやすいのか気持ちよく打てるのかを考えさせていきたい。バットは軽いプラスチックのものを使用し,力の弱い児童でも気持ちよく力強くスイングできるようにしたい。また,打つ用具は,バットだけではなく,硬式テニスラケットも用意し,バットでボールに当てることができない児童に対して使わせ,空振りの数を減らし,ボールを思い切り打つことの気持ちよさを児童全員に味わわせていきたい。

〈コートの工夫〉

　　児童がティーボールを楽しむためには,活動の中で場の安全の配慮が必要不可欠である。打者の児童は,ボールを打つのに夢中になり,打った後のバットを周りの児童にぶつかりそうな方向に投げてしまう可能性が高い。そこで,左右それぞれのバッターボックスの隣にかごを置いて,ボールを打った後かごの中にバットを入れたら１点の加点を与える。１点の加点があることで,打った後のバットをしっかりと置くことを意識させ,安全にプレーさせたい。コート上においてネクストバッターサークルは,設定せずベースや打つ場所から離れたところに,それぞれの待機場所を作り,安全に活動を行わせたい。また,既存のバスケットコートで使われているセンターサークルを用いて,ミニBTボールで使用するサークルエリアとする。サークルが大きく視覚的に分かりやすく,場の準備の時間の削減にも繋がっていく。また本来ティーボールは,ベースからベースの角度は６０°であるのが基本であるが,ファールゾーンの縮小をし,ヒットゾーンを広げ,打ち直しの軽減のために,約４５°に設定しコートを作っていく。

手立て③【チーム内で勝つために作戦を考えたり,みんなが楽しく活動できるために必要なことを話し合わせたりし,児童が楽しく活動に参加できるようにする。】

　　ベースボール型ゲームの単元の全８時間のうちティーボールの試合は１時間目の試しのゲームから単元全ての時間で行っていく。ゲームの方法は，日本野球機構推奨のBTボールを中学年の発達段階に合わせてルールを易しくしたミニBTボールを行う。試合は６人対６人の攻めと守りに分かれて行う。攻める側は，練習した時に打ちやすかったり,自分がお気に入りの大きさのボールを自分で選んだりして，ティーに置く。ボールを打ったら，バットかテニスラケットをかごに入れ,ダイヤモンドを一塁から順に走塁していく。守備は，飛んだり転がってきたりしたボールを捕り，ダイヤモンド中心に位置するサークルエリアにいる人にボールを投げて渡す。打つボールの選択や守りやキャッチサークルの人の入れ替えなどの作戦を考えさせながら楽しく活動を行わせていきたい。

本単元１時間目の試しのゲームにおいて,基本的なミニBTボールの規則を児童に提示し,活動を行わせていく。試合や練習をしていく中で,チームで話合わせ「もっとこんな作戦で試合をしてみたい。」という意見や「もっとこんな規則で試合をしてみたい」という意見が出たら単元５時間目から始まる作戦タイムを中心にチームや全体で共有し考え，試合に取り入れさせていきたい。また,「もっと試合が楽しくなるためにはどんなことをすればいいか」ということを考えさせるなどして苦手な児童も含め全員が楽しく活動をさせていきたい。

**【ミニBTボール　試しのゲームの際に提示するルール】**

**【全体のルール】**

1. 攻めるチームも守るチームもそれぞれ６人

（５人のチームは,試合の始めにじゃんけんで２回打つ人を決める。２回打つ人は連続で打たない。）

1. 打者が打ったボールをキャッチサークルにいる人がキャッチし,ボールを上に上げるまでに，打者がどこまでの塁に行けていたかで得点が決まる。

③　塁を踏む時に間に合っているかどうか判断が難しい場合は,その時の打者とキャッチサークルの人でじゃんけんをして,決める。

**【攻める側のルール】**

1. 打者は打つ前に「いきます」か「打ちます」と守備チームに伝える。
2. ボールを打つ時に空振りをしたら，打ち直しをする。
3. 打ったボールがファールラインより外に落ちたら，打ち直しをする。

（ヒットゾーンに落ちたボールがファールゾーンに転がった場合はヒットになる。）

1. 打ったら，１塁から順番に塁を踏んで走っていく。

（塁を踏むごとに１点入る。例１塁までで１点、２塁までで２点、３塁までで３点）

1. 打ったら，バットやテニスラケットをかごに入れる。

（打者に１点入る。）

1. ノーバウンドで壁に当たったらホームランとなり,走塁した分に１点加点される。

（守備の人は,壁に跳ね返ったボールを,キャッチサークルの人に渡す。）

（ホームランの時もバットはかごにしっかり入れる。打者は最高で７点になる。）

（ホームラン２点、本塁まで４点、バットをかごに１点　計７点）

**【守る側のルール】**

1. 打者がボールを打つまでは，守備の人は内野ラインの内側には入れない。
2. キャッチサークルにいる人は，打者の打ったボールを直接捕ってはいけない。

（守備経由でボールを必ず受け取る。）

1. フライのボールをキャッチしたら，打者は０点になる。

（バットをかごに入れていた場合１点は入る。）

1. 守る人は,コート内に４人ずつ入り１人打ち終わったら,時計回りに移動する。

（ダイヤモンド外側のコートの左右に２人ずつ守備の人がいる。）

※学習を進めていく上で変更の可能性あり

【ルールと規則の解釈の違いについて】

「ルール」は一般化されたスポーツの公式ルールを基にしたもので，高学年の発達の段階を踏まえて児童が取り組みやすいように簡易化されたゲームにおける修正したルールを意味している。「規則」はそれよりも易しく中学年の発達の段階を踏まえ，みんなが楽しめるように学級担任と子どもたちで考え工夫した易しいゲームの行い方を指す。

本単元の１時間目で提示する試しのゲームの規則は,公式のBTボールのルールを中学年の発達段階や学級の実態を踏まえた上で,ルールを易しくしたものである。よって子どもたちに1時間目で提示したのは，ミニBTボールの規則ということになる。試合をしていく中で,「この部分の規則を変えたら,みんなが楽しめそう」などと発言や意見が出た際には,ふり返りの際に全体で共有し,規則を変更していくかを吟味したい。指導案上では,ルールと規則の区別をして記載をするが,ミニBTボールの学習活動において子どもたちに対しては,理解をしやすくするために,**児童には「規則」ではなく「ルール」という言葉で統一して伝えながら学習活動を行っていく。**

重点目標②「児童が互いに学び合い,高め合っていくための学習活動の充実を図る」

手立て①【練習や試合をするだけではなく,友達が練習や試合を見る機会をつくりコツやポイントの共有をする。】

　　練習を行っていくと,できないことや自分自身の課題に気付くことがある。また,自分の投げるフォームや打ち方については自分ではなかなか気付きにくい。本単元の中では,２人ペアの基礎感覚づくりの練習やチームごと個の課題に応じた練習を行う中で,お互いの動き方を見合うことのできる場を設定していく。近くに練習している友達がいるからこそ,お互いにアドバイスしたり,試合につながる声かけをしたりすることができる。また,試合の様子を撮影し,自分や友だちの打つ・捕る・投げるなどの様子を視聴させ,練習に活用するなどしてチームの意欲向上に繋げていきたい。

手立て②【チームで作戦について話し合う作戦タイムを行う。】

　　単元５時間目から試合と試合の間に作戦タイムを設定し,チームで試合について話合わせる。作戦といっても,勝つための戦術面や勝つことだけではなく,チームのみんなが楽しめるような声かけなどのアイデアも必要になってくる。教師もチームの作戦タイムに参加し,意見を聞く中で,発言している児童や発言できてなくても友達の意見を聞こうとする姿勢の児童も積極的に褒めていく。単元５,６,７時間目では,試合のコート図が描かれた作戦ボードを活用しながらチームで話合いを行う。作戦ボードに書かれた作戦は,教師がクロムブックで撮影し,次時の作戦タイムでも活用させて,より作戦の吟味をさせていく。

手立て③【ICTを活用し,チームで動画の視聴や共有をする。】

　　本単元では, １時間目からミニBTボールの試合の様子を固定台に設置したクロムブックで撮影していく。その動画は授業外の時間に視聴し,試合の様子や動き方について自分と比較しながら確認させたい。

単元の３時間目と４時間目には，チームごとの道具かごにクロムブックを１台ずつ用意し,クラスルームに載せられたベースボールのお手本の動画（NHK for schoolなど）をいつでも視聴できるようにする。お手本動画の視聴は,チーム内で一緒に見合ってよいとする。動画を観ながら,ボール運動の動作を確認できるようにした上で,練習の質を高めていきたい。

手立て④【単元の最後に学年混合授業を実施する。】

　　本単元の１時間目の授業の初めに,単元の最後に４年生とミニBTボール大会をすることを児童に伝える。４年生に勝つために練習をしていくという気持ちをもたせ子どもたちの意欲を高めさせる。４年生に勝つためには,チームの中で作戦を考えたり,お互いに声をかけ合うなどしたりするなどよい雰囲気で活動していくことが必要である。学年混合授業の際には,チームや３年生の応援はもちろんのこと,４年生のよいプレーを見て,「どうやったら４年生のように上手くプレーできるのか」も考えさせたい。４年生との学年の混合授業実施の後,楽しくベースボール型ゲームの活動が終わって,来年度もやりたいという気持ちにさせていきたい。

４　単元の目標

（１）ベースボール型ゲーム（ミニBTボール）の行い方を知るとともに,易しいゲームをすることができるようにする。

【知識及び技能】

（２）規則や使う道具を工夫したり,ゲームの型に応じた簡単な作戦を考えたりするとともに,考えたことを友達に伝えることができるようにする。

【思考力,判断力,表現力等】

（３）運動に進んで取り組み,規則を守り誰とでも仲よく運動したり,勝敗を受け入れたり,友達の考えを認めたり,場の用具や安全に気を付けたりすることができるようにする。

【学びに向かう力,人間性等】

５　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1. ミニBTボールの行い方について,理解している。 2. ボールを打ったり,投げたり,捕ったりするなどの基本的なボール操作ができる。 3. ボールをよく見て打ったり，守備の時に,ボールの飛球方向に移動して捕ったりボールを狙った方向に投げたりすることができる。 | 1. 攻撃の際に,ティーを自分が打ちやすい高さにしたり，道具を選んだりしている。 2. チームが勝つための簡単な作戦や試合を楽しむための声かけを考えている。 3. 試合で攻める時の打ち方や守る時のボールの捕り方についての工夫を周りに伝えている。 | 1. ゲームに進んで取り組もうとしている。 2. 規則を守り,誰とでも仲よくしようとしながら,ゲームの勝敗を受け入れている。 3. 用具などの準備や片付けを,友達と一緒にしようとしている。 |

７　本時の学習

1. 日時　令和５年　１０月４日（水）　５校時（１４：１５～１５：００）
2. 場所　甲府市立新紺屋小学校　体育館
3. 本時の目標（７／８時）

　○ボールをよく見て打ったり，守備の時に,ボールの飛球方向に移動して捕ったりボールを狙った方向に投げたりすることができる。

【知識・技能】

◎チームが勝つための作戦やチームが楽しむための声かけを考えて,周りに伝えている。

【思考力,判断力,表現力等】

1. 準備する道具等

【個の課題に応じた練習】

　〈教師の準備〉移動式タイマー

　〈児童の準備〉練習用かごセット（バット２本,ソフトフォームボール３種類,新聞紙ボール４個,テニスラケット１本）,的当てゲーム用段ボール２つ，ティー１本×４チーム分

※単元５時間目から作戦セット（作戦用ホワイトボード,ネームプレート人数分,ペン２本）をチームごと練習用かごセットに追加

【ミニB Tボールの試合】

〈教師の準備〉移動式タイマー，ネット（体育館の中心）

　〈児童の準備〉得点板１つ,練習用かごセット,ベース３つ，ティー１本を２コート分

1. 本時の指導意図

　「自ら考え互いに学び合う」に迫っていくためには，教師から「これしよう」「次にこんなことやってみよう」と言われ，言われたことだけをやるのではなく自分で考えて「今日はこの練習をしてみたい」「試合で打つことを頑張ってみたい」「こんな作戦をチームに伝えてみたい」と思わせることが必要だと感じる。そこで本時は，「個の課題に応じた練習」をサーキット方式ではなく，お互いに練習する姿を近くで見たり，声をかけ合ったりすることをねらいとしてチームで一緒に練習する場を設定し，活動を行わせていく。練習の段階からチームと共に活動をすることで試合をする時のお互いに作戦を考えたり声をかけ合ったりするなどの協働時の際の抵抗感が薄まり，チーム内での自然な対話が生じてくると考える。また,試合と試合の間にある作戦タイムでは,チームの試合の様子から主に勝つためやそこに付随して楽しくなるためにできることの話し合いを行わせることで,互いに学び合う姿に迫っていきたい。

「ミニB Tボール」の学習では，本時のねらいとして試合に勝つことに焦点を当てて作戦を考え，試合を行っていく。また,活動の中での作戦タイムでは,チームごとの作戦ボードも活用しながらチームとして,勝つためにはどんなことをすればいいのかを具体物を使わせながら考えさせる。試合に勝つことで嬉しさや気持ちよさが感じられるが，試合に勝つためだけの視点になると上手な子がたくさん打ったり，捕ったりして，上手でない子の出番が少なくなり,前に出ようとする気持ちやゲームの中での自己肯定感が低下してしまう。そこで,作戦タイムでは,みんなが楽しくゲームをするという視点も取り入れながら考えさせていきたい。

1. 学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過程  分 | 主な学習活動・内容 | ・指導上の留意点　　◆評価  ○自ら考え,互いに学び合うために働きかける工夫 |
| 導入  １２  展開  ２８  終末  ５ | １　集合・整列・挨拶・準備体操を行う。  ２　チームごと個に応じた練習の準備をする。  ３　個の課題に応じたチームごとの練習をする。  ４　個に応じた練習の場の片付けをする  ５　本時のめあてを確認する。  ６　ミニBTボールの試合を行う。   1. ゲーム　１回戦（1回の表）   ・タイマーが鳴ったら相手のチームと攻守交代をする。  （２）攻守交代  （３）ゲーム　１回戦（１回の裏）  （４）チーム作戦タイム（５分）  （５）ゲーム　２回戦（１回表）  ・タイマーが鳴ったら相手のチームと攻守交代をする。  （６）攻守交代  （７）ゲーム　２回戦（１回裏）  ７　ミニBTボールの片付けを行う。  ８　本時の学習のふり返り   1. ふり返り 2. 次時の予告 | ・準備体操では,本校独自の血流を上げて体を温めるための新紺屋リズム体操を行わせる。  ・手ぬぐいストレッチでさらにボール運動で使う手首や体を重点的にほぐさせる。  ・チームごと準備する道具を予め決めておき,素早く準備ができるようにさせる。  ・安全に道具を運んで準備ができているかどうかよく確認する。  ・準備ができたチームから個に応じた練習を行わせる。  **○練習場所を回り，児童に肯定的な声かけやアドバイスをして，個の課題を再確認させる。**  **チームごと個の課題に応じた練習について**   1. **ヒット・ホームランゲーム（打つ）※打つことに課題がある児童**   ・１人２球ずつで打球が壁にノーバウンドで届いたら，ホームランとし，ゴロで届いたらヒットとする。（1人２球打つ。ボールの大きさは,自分で選択できる。）   1. **的当てゲーム（投げる）　※投げることに課題がある児童**   ・穴が空いている段ボールで作られた的当てゲーム用の箱に向けてボールを投げる。狙った形に向けて投げるようにする。  （1人３球投げる。新聞紙ボールとソフトフォームボールを混ぜてもよい。）  ・片付けが終わったチームからホワイトボード前に集合させる。  チームで考えた作戦を使って,楽しく試合をしてみよう③  ・ホワイトボードで,本時のめあてについて確認をする。  ・対戦相手は,予め決めておき,ホワイトボードにも掲示する。  ・試合の準備ができたチームのリーダーに手をあげさせる。  ・試合の始めと終わりには,コートの中心に並び整列させる。  ・友だちの頑張っている姿に応援などの声かけを促す。  ・タイマーで５分を計って試合をする。  ミニBTボールの基本的な規則  （変更の可能性あり）  ・１チーム６人ずつで,攻めと守りを１回ずつ行う。  【攻撃】   1. 打者は打ったら,一塁から順番に走塁する。 2. ノーバウンドで,壁かネットに当たったら,進んだ塁の分に得点を＋２加点する。   【守備】   1. 打者がボールを打つまでは,内野ラインの内側に入ってはいけない。 2. フライのボールをキャッチしたら,打者の得点は０になる。 3. 守備は,コート内に４人ずつ（左右に２人ずつ）入り,１人打ち終わったらキャッチサークルの人も含めて,反時計回りに移動する。     ・作戦タイムの前に水分補給をさせる。  ・１試合目のふり返りをしながら，自分の考えた作戦を交流させる。  ・チームごと作戦ボードを使って交流させる。  ◆チームに自分が考えた勝つための作戦やチームが楽しむための声かけを考えて,周りに伝えている。  ◯作戦タイムの時に，４つのチームを巡視し，チームの話し合いの様子を見る。  ・上手く打てたり守れたりする児童の他に,チームに声かけをしている児童に対して,教師からも肯定的な声かけをする。  ・１回戦目と同じチームで試合を行わせる。  ・リーダーを中心に作戦タイムで話合わせたことを試合で実行させるように促す。  ・リーダーを中心に作戦タイムで話合わせたことを試合で試してみるように促す。  ・安全に素早く片付けができるように声かけをする。  ・片付けを行ったチームから,集合場所に戻ってふり返りシートに記入をするように促す。  ・チームで考えた作戦が効果的であったのかそうでなかったのかについてふり返りをさせる。  ・次時は,４年生とのミニBTボール大会を行うことを伝えて,さらに試合に対しての気持ちを高めさせる。 |

（７）評価

○ボールをよく見て打ったり，守備の時に,ボールの飛球方向に移動して捕ったりボールを狙った方向に投げたりすることができる。

【知識・技能】

◎チームに自分が考えた勝つための作戦やチームが楽しむための声かけを考えて,周りに伝えている。

【思考力,判断力,表現力等】

○本時の展開図（体育館）

①集合→チームごとの練習

ステージ

入り口

|  |
| --- |
| 道具かご  道具かご  ホワイトボード  白  ②　　　　　　①  青   1. ②   黄  ②　　　　　　①  赤   1. ②   集合・整列・体操  チームごと４列 |

※①はヒット・ホームランゲーム,②は的当てゲームの練習場所で,練習は,全チーム壁側に向かって行う。

②チームごとの練習→ミニBTボールの試合会場

入り口

|  |  |
| --- | --- |
| 得点板  守備チーム待機場所  攻撃チーム待機場所  コート② | 得点板  攻撃チーム待機場所  守備チーム待機場所  コート① |

※打者が1人終わったら,キャッチサークル内の人も含めて反時計回りに移動する。

※得点の表示は,打者の１つ後ろの打順の児童が行う。

1. 資料

○手ぬぐいストレッチ

両端にこぶを作った手ぬぐいを使用して,肩や腕,手首などを重点的に回したり伸ばしたりする。

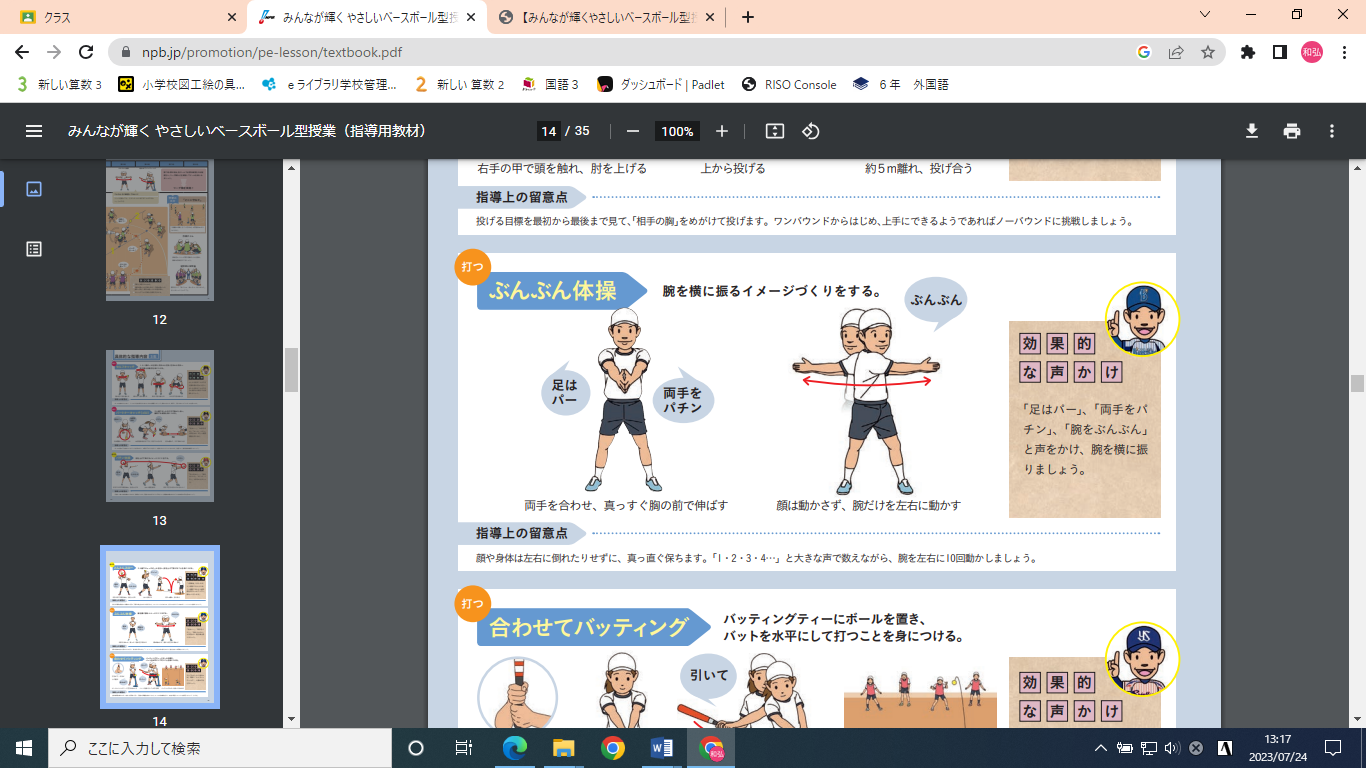
（令和５年度　「もっと楽しい体育授業で体力アップ！」事業より）



・手ぬぐいで体伸ばし（前後と左右）

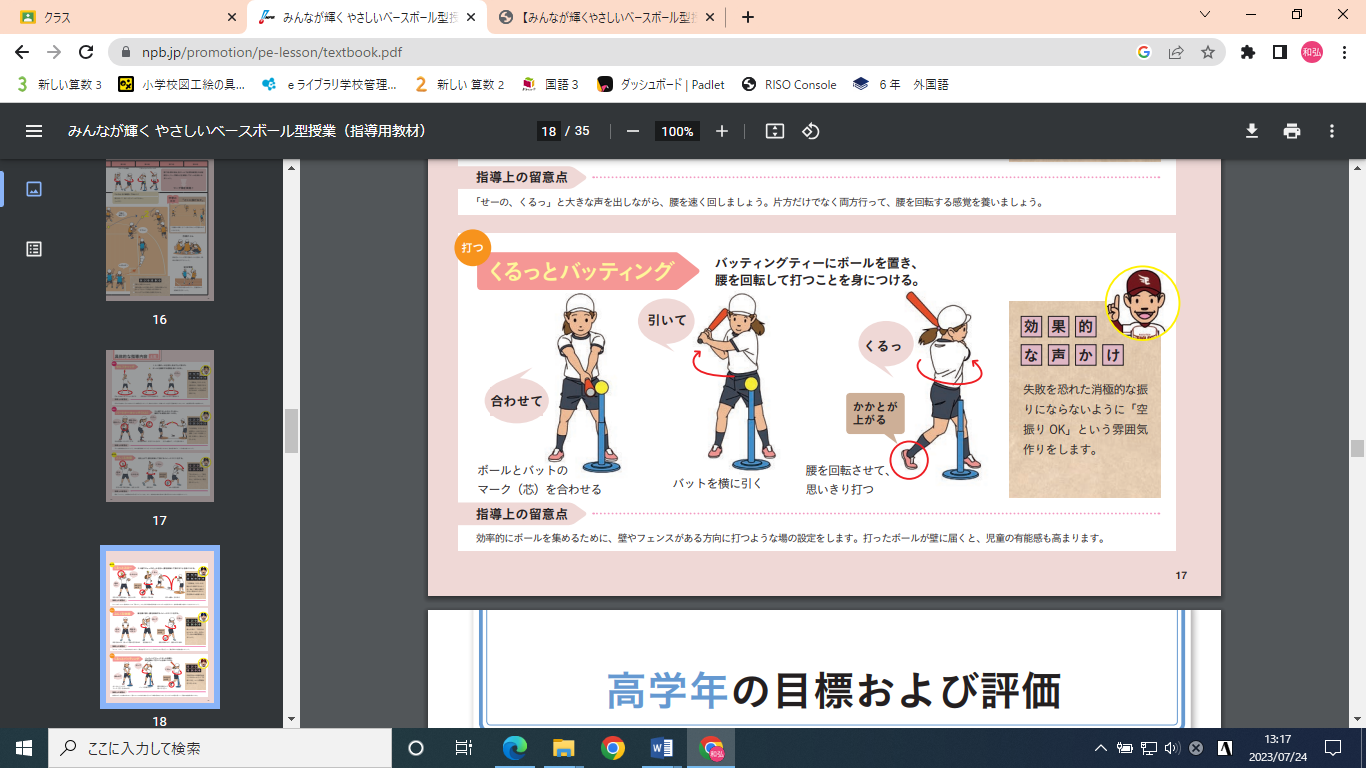
・手ぬぐい回し（手をピースにして手ぬぐいを挟み，ボールを投げる方の手で大きく回す。）

○打つ動きにつながる運動



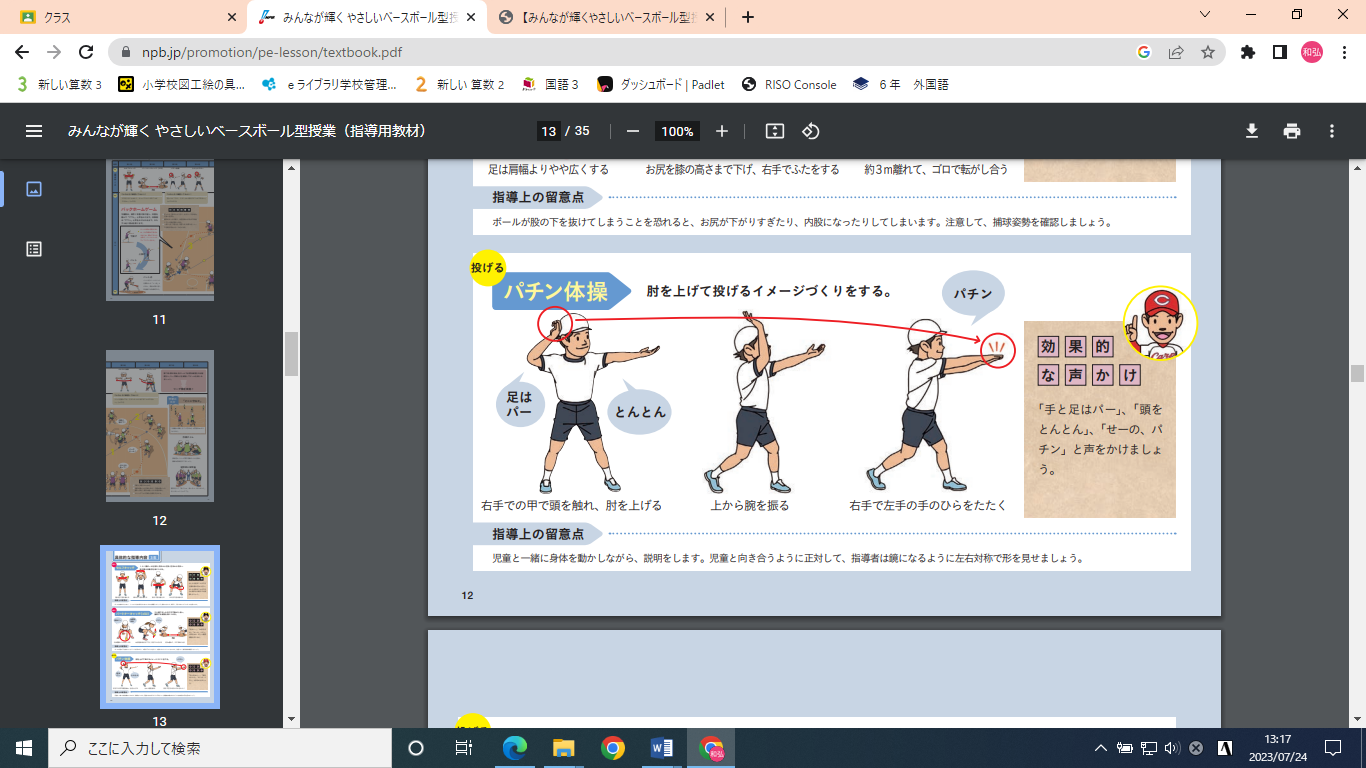




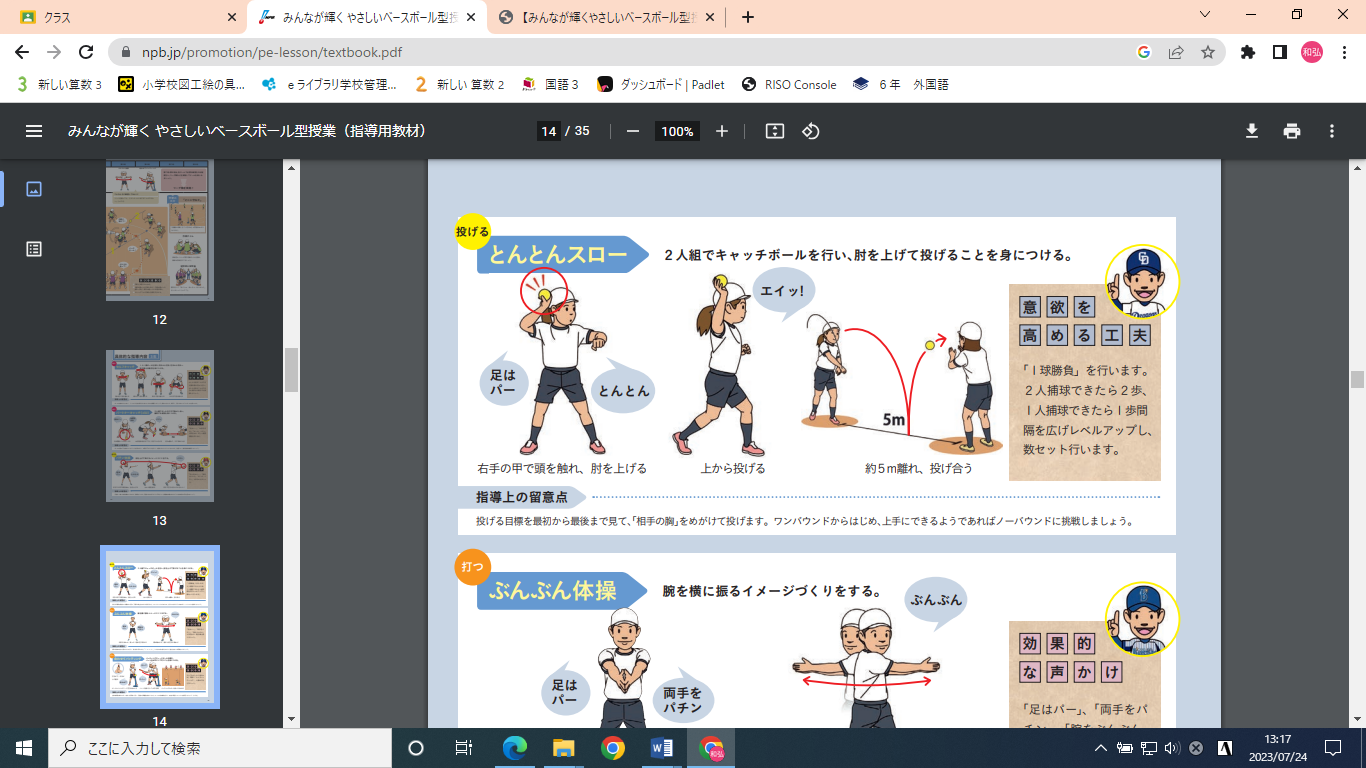


ぶんぶん体操とぶんくる体操とくるっとバッティングと合わせてバッティングは,単元の中で基礎感覚づくりや個の課題に応じた練習の際に,児童への指導をする時に行う。

○投げる動きにつながる運動



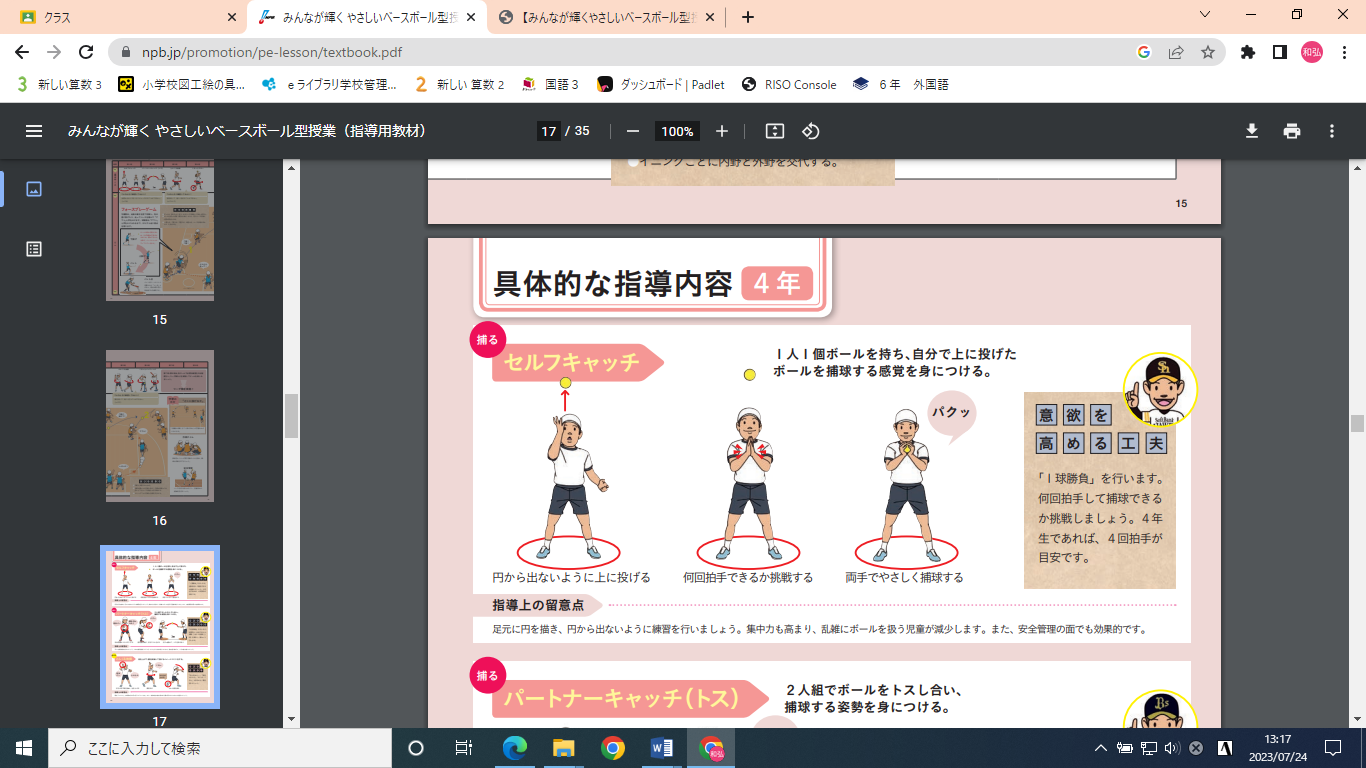




バチン体操ととんくる体操やとんとんスローは,単元を通じて基礎感覚づくりや個の課題に応じた練習の際に,児童に指導をする。

○捕る動きにつながる運動











セルフキャッチとパートナーキャッチは,基礎感覚づくりの際に,児童に指導する。

1. 参考・引用文献

・一般社団法人日本野球機構『BTボールのルールせつめい』

・文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説　体育編』

・阿部　利彦(2015)　『気になる子の体育』

・一般社団法人日本野球機構　『みんなが輝く　やさしいベースボール型授業』

・鈴木直樹(2020)『８つのポイントで運動大好きの子供をつくる！体育授業のICT活用アイデア５６』

・文部科学省(2020)　『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

・文部科学省　『第４章「ゲーム及び運動」領域に関するQ＆A』

６　指導と評価の計画（総８時間）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時数 | | １ | ２ | | | ３ | | ４ | ５ | ６ | ７**（本時）** | ８ |
| 学習課題 | | 単元や学習の流れについて知り,ボールに慣れる。 | 試しのゲームのルールについて知り,試合をする。 | | | 個の課題に応じた練習方法について知る。 | 個の課題に応じた練習を試合で生かす。 | | チームで試合に勝つためや試合を楽しむためにできることを話し合う。  話し合った作戦を試合で試してみる。 | | | ４年生とミニBTボール大会をする。（校庭） |
| ステップ | | ステップⅠ | | | | ステップⅡ | | | ステップⅢ | | | |
| 一時間の学習の流れ | ０  １０  ２０  ３０  ４０ | 集合・整列・挨拶・準備体操（新紺屋リズム体操・手ぬぐいストレッチ） | | | | | | | | | | |
| 基礎感覚づくり運動（投げる・打つ・捕る動きにつながる運動） | | | | | | | 個の課題に応じた練習  ○ヒットミニゲーム・的当てゲーム  （**打つ・投げる**ことの練習） | | | **４年生とミニBTボール大会をしよう。** |
| **単元や学習の流れについて知り,試しのゲームをしよう。**  オリエンテーション  単元やルールの確認 | **場の準備やミニBTボールのルールをおぼえよう。**  場の準備の仕方とルールの確認 | | **チームごと行う練習やじゅんびの仕方について知ろう。** | | | 個の課題に応じた練習 |
| 練習の場の準備の仕方と練習方法について  個の課題に応じた練習  （ヒットミニゲーム,的当てゲーム）  ミニBTボール  ○１試合  （１回裏まで） | | | **チームで作戦を考えて楽しく試合をしてみよう②**  **チームで作戦を考えて楽しく試合をしてみよう③**  **チームで作戦を考えて楽しく試合をしてみよう①**  **打ち方や投げ方を工夫して,試合をしてみよう。** | | | | チームと試合会場の確認 |
| ミニBTボール  （全３試合）  ○１試合  （１回裏まで  攻守５分ずつ）  ３回繰り返す |
| 試合のデモンストレーション  試しのゲーム  ○１試合  （１回裏まで） | 合わせてバッティング | | ミニBTボール  ○１試合  （２回裏まで） | ミニBTボール  ○１試合（１回裏まで　攻守５分ずつ） | | |
| ミニBTボール  ○１試合  （１回裏まで） | | 作戦タイム | | |
| ミニBTボール  ○１試合（１回裏まで　攻守５分ずつ） | | |
| 片付け・集合・ふり返り・整列 | | | | | | | | | | |
| 評価計画 | 知 | ①　観察・シート | ①　観察・シート | ②　観察 | | | |  | ②　観察 | ③　観察 | ③　観察 |  |
| 思 |  |  | ①　観察 | | | | ③　観察・シート | ②　観察・シート | ②　観察・シート | ②　観察・シート | ③　観察 |
| 態 | ①　観察 | ②　観察 | ③　観察 | | | | ③　観察 |  |  |  | ②　観察 |
| 授業時間外 | | 動画視聴（分析） | 動画視聴（分析） | 動画視聴（分析） | | | | 動画視聴（分析） | 動画視聴（分析） | 動画視聴（分析） | 動画視聴（分析） | 動画視聴（分析） |

※知・・・「知識・技能」　　思・・・「思考・判断・表現」　　態・・・「主体的に取り組む態度」

ミニBTボール　学習ワークシート

　年　　　組　　　　番　　　　名前（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時 | 第１時 | 第２時 | 第３時 | 第４時 | 第５時 | 第６時 | 第７時 | 第８時 |
| 本時の学習の  めあて | 単元の流れについて知り，試しのゲームをしよう。 | 場のじゅんびの仕方やミニBTボールのルールをおぼえよう。 | チームごと行う練習とじゅんびの仕方について知ろう。 | 打ち方や投げ方をくふうして，試合をしてみよう。 | チームで作戦を考えて，楽しく試合をしてみよう① | チームで作戦を考えて，楽しく試合をしてみよう② | チームで作戦を考えて，楽しく試合をしてみよう③ | ４年生とミニBTボール大会をしよう。 |
| 下の①～④には,◎、○、△を記入する。（◎　よくできた　○　できた　△　あまりできなかった・つぎはがんばりたい） | | | | | | | | |
| ①めあてがたっせいできたか。 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ②すすんで練習や試合ができたか。 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ③じゅんび・かたづけをがんばったか。 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ④作戦タイムで意見をつたえることができたか。 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 今日のミニBTボールの学習についての  ふりかえり |  |  |  |  |  |  |  |  |